



誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる別府小学校
～全ての子どもに居場所がある学校づくり～
～学校だより6月号 巻頭言として～

令和7年5月30日(金)
発行：摂津市立別府小学校
校長 河平 浩一

すべての子どもに、あたたかくやさしい学校を

朝、校長室の窓を開けると、「おはようございます!」と元気に声をかけてくれる子がいます。ときには顔をのぞかせてくれる子もいて、朝から笑顔をもらうことがあります。また、校門に立って挨拶をしていると、自分から進んであいさつをしてくれる子、立ち止まって丁寧にお辞儀をしてくれる子もいます。そんな姿に触れると、「今日もいい一日が始まる」と、心がとても温かくなります。

私は校長として、毎日校長室にいます。校長室には地域の方や教育委員会、企業や議員の方、そして保護者の皆様など、たくさんの大人が訪れます。

そして最近では、子どもたちもたくさんやってきます。「校長先生、遊ぼう!」と笑顔で来る子もいれば、「ちょっとイライラしてて……」「今日は教室に行きたくない」「授業が難しい」と、自分の気持ちを言葉にして訪ねてくる子もいます。

別府小学校では、『誰もが楽しく幸せに過ごせる学校～すべての子どもに居場所がある学校づくり～』を大切にしています。

教室に入れない子、別室で学習している子、外に出て気持ちを落ち着かせてから戻ってくる子、そしてなかなか学校に行くことができない子も…子どもたちはみんな、それぞれにがんばって日々を過ごしています。そしてそれは、どれもその子にとっての「がんばりのかたち」なのです。



学校には、さまざまな特性をもった子がいます。育ってきた環境も、それぞれ違います。子どもたちは、家庭ではない「学校」という場に身を置きながら、自分を表現しようとしたり、自分の居場所を探そうとしたりしています。

そんなとき、学校が「あたたかくて やさしくて 寛容な場所」でありたいと、私は願っています。

学校は、親でも親戚でもない、けれど、子どもたちを大切に思う大人たちが集まっている場所です。「あなたがいてくれてうれしい」「あなたが大事だよ」と、言葉やまなざし、態度で伝えることのできる場所。だからこそ、子どもたちは学校で「自分は大事にされている」「認められている」と感じる事ができるのです。

そして、その実感こそが、子どもたちの未来に向かう力になるのだと私は信じています。

「学校で、大事にされた」「愛された」「味方がいた」——そう思える体験は、困難に出会ったときに自分を支える柱になります。

子どもたちがそのような思い出を、少しでも多く持てるよう、私たち教職員は、目の前の子どもたちに丁寧に向き合い、寄り添い続けていきたいとおもいます。

どうか保護者の皆さまにも、日々それぞれのペースでがんばっている子どもたちを、そして、それを支える教職員を、あたたかく見守っていただければ幸いです。これからも、子どもたちが「この学校に来てよかった」と思える場所であるように、力を合わせてまいります。